

（第1面）

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和2年 7月14日

寝屋川市長 様



住所 大阪府寝屋川市石津元町10番32号
提出者 氏名 皆見電子工業株式会社
代表取締役 皆見 孝

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 072-829-7371

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	皆見電子工業株式会社
事業場の所在地	大阪府寝屋川市石津元町10番32号
計画期間	2020年4月1日～2021年3月31日迄
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	2841：電子回路基板製造業
② 事業の規模	製造品出荷額：110,000万円
③ 従業員数	100名
④ 特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり（別紙-1）

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図) 別紙のとおり (別紙-2)

特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度 (31年度) 実績】		
	特別管理産業 廃棄物の種類	廃アルカリ	廃酸
	排 出 量	764.1 t	77.1 t
	(これまでに実施した取組) 前年度 (H31年度) 分については特になし		
②計画	【目標】		
	特別管理産業 廃棄物の種類	廃アルカリ	廃酸
	排 出 量	820 t	80 t
	(今後実施する予定の取組) 本年度の生産計画 (2020年1月1日現在) による生産量は、前年比107%。今年度については減量に対する改善計画は現在のところ特になし。		

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 特になし
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 特になし

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃酸
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ・実施していない		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃酸
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) ・予定無し		
自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃酸
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
(これまでに実施した取組) ・実施していない			
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃酸
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
(今後実施する予定の取組) ・予定無し			

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃酸
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ・実施していない		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃酸
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) ・予定無し		

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ 31 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃酸
	全処理委託量	764.1 t	77.1 t
	優良認定処理業者への処理委託量	764.1 t	77.1 t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・実施していない		

②計画	【目標】		
	特別管理産業 廃棄物の種類	廃アルカリ	廃酸
	全処理委託量	820 t	80 t
	優良認定処理業者 への処理委託量	820 t	80 t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者 への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	t	t
(今後実施する予定の取組) ・特になし			
電子情報処理組織の使用 に関する事項	【前年度 (30年度) 実績】		
	特別管理産業廃棄物 排出量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く)		0 t
(今後実施する予定の取組) ・今年度の減量に対する改善計画は特に無し。			
※事務処理欄			

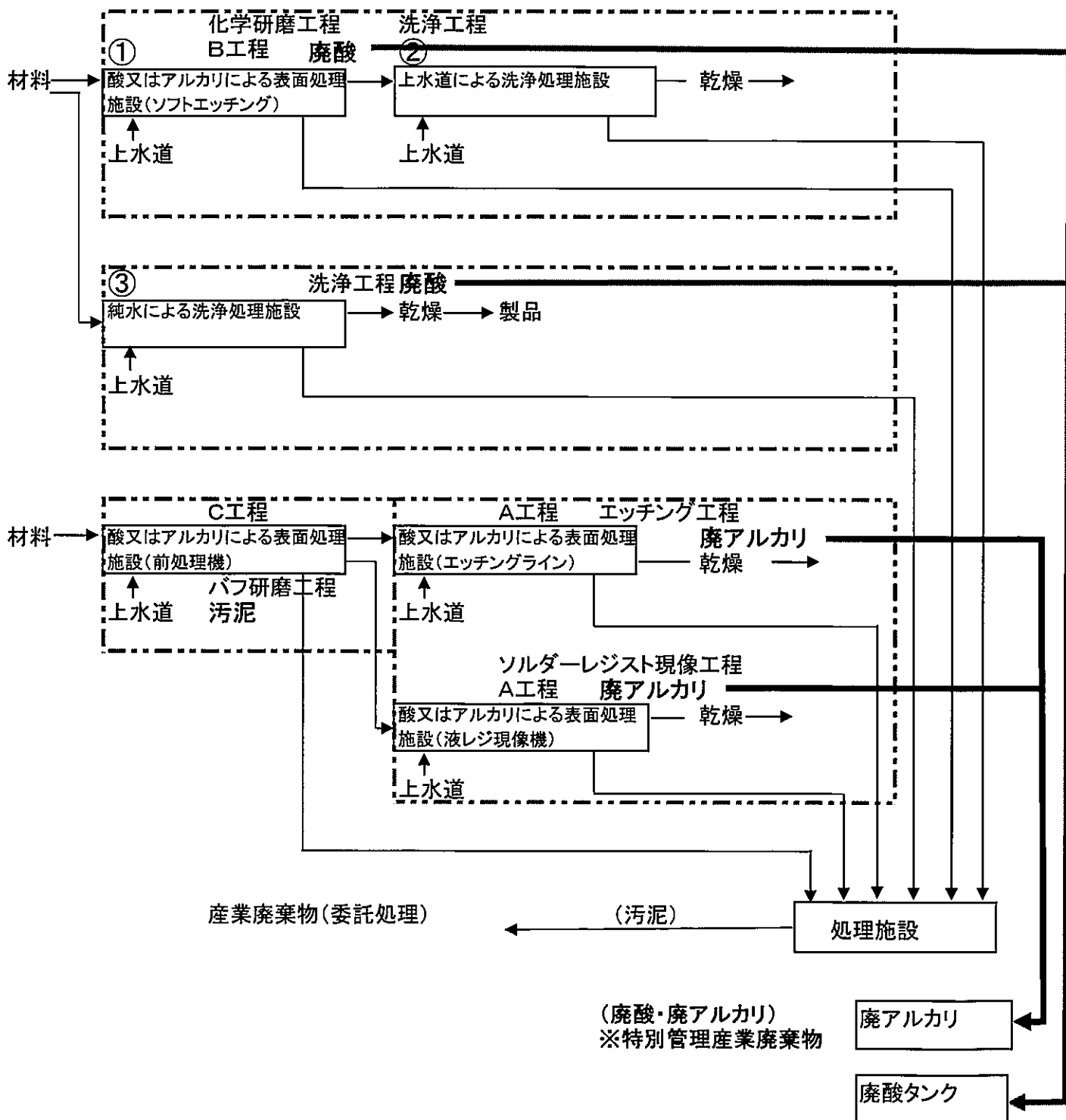
(第6面)

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トンを超える者については、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物発生工程フロー

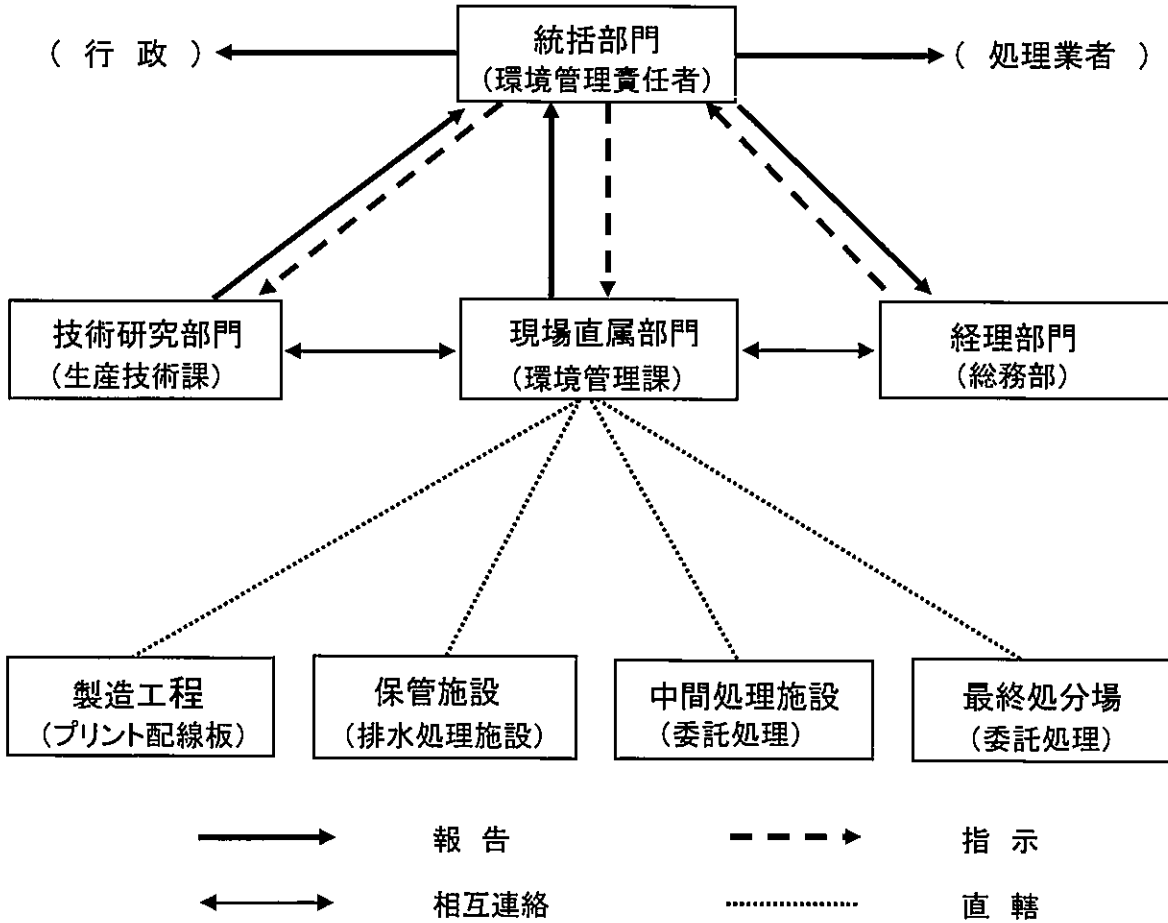
皆見電子工業株式会社(本社工場)



皆見電子工業株式会社

[社内組織図]

皆見電子工業 株式会社(本社工場)



[各部署の役割]

部署	役割
A 統括部門 環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物の発生から処分に至るまでの帳簿等を作成して統括的に把握管理 産業廃棄物の発生工程、種類ごとの発生量、排出量及び性状等のチェック、集計等 行政に対する報告等 処理業者委託の委託契約、委託量、委託伝票(マニフェスト)等の管理 産業廃棄物の適正管理及び減量化等に関する社内啓発
B 現場直属部門 環境管理課	<ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物の種類、性状、発生量及び排出量等の把握 各現場の施設の日常点検等・処理施設(事業場内・外)の定期的査察 廃棄物の資源化・減量化及び適正管理について検討し産業廃棄物処理計画の策定及びその実施
C 技術部門 生産技術課	<ul style="list-style-type: none"> 特別産業廃棄物及びそれに類する設備及び処理施設の保全業務
D 経理部門 総務部	<ul style="list-style-type: none"> 委託料金の支払方法による業者管理 上記内容をAに報告